

株式会社常磐植物化学研究所



ESGレポート2023



Tokiwa Phytochemical ESG Report 2023



tokiwa
PHYTOCHEMICAL

対象期間:2022年4月～2023年3月 発行日:2023年8月1日

目次

【tokiwaのサステナビリティ】

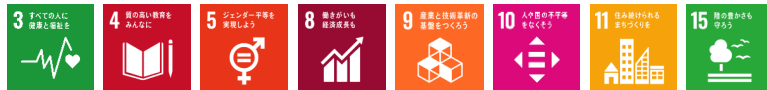
- p.4 トップメッセージ
- p.5 設立趣意書、経営理念、行動規範
- p.6 サステナビリティ方針
- p.8 サステナビリティトピックス
- p.10 常磐植物化学研究所の事業とSDGs
- p.11 常磐植物化学研究所の製品利用

【環境-Environment-】



- p.13 エコアクション21(EA21)
- p.14 EA21 登録事業所の概要
- p.15 EA21 環境経営組織図及び実施体制
- p.16 EA21 2022年度の環境活動内容
- p.18 EA21 2022年度の主な環境活動内容詳細
- p.23 EA21 環境活動の実績と評価
- p.24 EA21 環境活動の取り組み計画
- p.25 EA21 中期計画
- p.27 EA21 その他環境活動取り組み例
- p.29 EA21 2022年度環境活動報告

【社会-Society-】



- p.31 社会への取り組み
- p.34 教育への取り組み
- p.37 植物化学発展への取り組み
- p.39 健康経営への取り組み
- p.41 働きやすい環境づくり
- p.43 労働安全・衛生への取り組み

【企業統治-Governance-】



- p.47 公平性・透明性のための情報開示
- p.48 コンプライアンスの遵守
- p.49 確かな品質の製品を製造するために
- p.51 BCPへの取り組み

tokiwaは様々なSDGs活動
に取り組んでいるたむ！



オリジナルキャラクター
ベねたむ

トップメッセージ



～～持続可能な発展を目指して～～

常磐植物化学研究所のESGレポート2023をご覧ください、誠にありがとうございます。私たちは、非財務マテリアリティを「生かされる」としています。自然や社会の中、人は生きているというより、生かされていると考えること、そのことを自覚していくことが持続可能な社会の実現にとっても重要であると考えています。

2008年の環境経営システム導入以降、「社会・環境報告書」、「CSR Report」、「サステナビリティレポート」を報告してきましたが、2023年より本報告書を「ESGレポート」と改名しました。E(環境)、S(社会)、G(企業統治)強化には予算が不可欠となります。本改名の目的は、ESG予算を「経費」ではなく、「投資」と捉え、企業の将来価値を高め、「生かされる」人と会社を実現していくことにあります。

中小企業を取り巻く環境は、厳しさを増しています。しかし、そうであればこそ、中小企業ならではのESG経営を社会に示し、持続可能な地球環境、社会の実現に取り組んでいく必要があります。私たちは、「世界一の植物化学企業」を目指し、これからもファイトケミカル(植物成分)の研究開発・製造・販売を通じ、人と植物の明るく、サステナブルな社会づくりへ貢献して参ります。

立崎 仁

設立趣意書

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする
植物化学の成果の医薬的応用により、
社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。
したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、
一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。
若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、
本社設立の主旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

経営理念

私たちは、
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。
最高の技術で、最高の製品を製造します。
社員の幸福と社会の発展に貢献します。
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

行動規範

私たちは、『経営理念』と、以下に定める『行動規範』を遵守します。
そして、地域、社会の未来を牽引できる倫理観を持ち続け、社会的責任を果たします。

1. 人間として正しい行動をします。
2. 人の命と健康、人権、文化、宗教を尊重します。
3. 学び、成長の機会を生涯持ち続けます。
4. 事業継続力(BCP*)、ESG経営力を高めます。
5. 薬事に関する法令遵守の体制を構築します。
6. 法令を遵守します。
7. 個人・機密情報を守り、正確に情報発信します。
8. 反社会的勢力との関係を排除します。

*)BCP:事業継続力強化計画

社長、役員、部門長は、本規範を率先垂範し、従業員の人間力向上に努めます。

サステナビリティ方針

- ① 限りある経営資源を大事にします。
- ② 社会、地球、植物から生かされる人・組織・会社であるために、何をすべきかを常に考え、行動します。

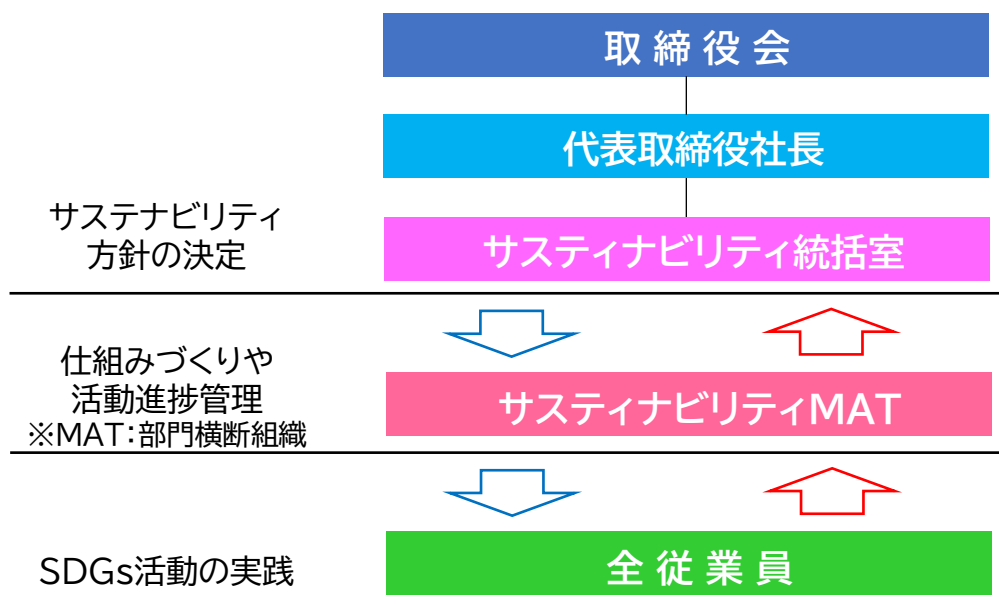
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康的な暮らしと社会の発展に貢献します。
植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。
また、薬用植物の栽培や次世代への教育を通じて、植物への感謝を示し、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

常磐植物化学研究所のSDGs推進体制

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」にて全会一致で採択された2030年までの新たな「持続可能な開発目標」で、17の目標と169のターゲットから構成されています。

常磐植物化学研究所では、2020年4月より代表取締役社長のもとに「サステナビリティ統括室」を、その配下に「サステナビリティMAT」を設置しました。

様々な事業・CSR活動を通してSDGsの実現に貢献していきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



tokiwaの事業 PHYTOCHEMICAL

環境 Environment



社会 Society



ガバナンス Governance



サステナビリティピックアップ

■ “2022年版 中小企業白書” 事例掲載

中小企業庁が作成・公表した「2022年版 中小企業白書」において、事例紹介として当社が掲載されました。

当社は、「第2部 新たな時代へ向けた自己変革力」において、「第2章 企業の成長を促す経営力と組織～中小企業における経営理念・ビジョンの浸透～」の категорияにて、全3社のうちの1社として事例紹介されています。

経営理念を軸に事業や社内教育を行い、社員の意識を向上させることで、低迷した業績をV字回復した点について取り上げていただきました。



■ “息子・娘を入りたい会社2023” 掲載

息子・娘を入りたい会社2023(ダイヤモンド・セレクト 2023年1月号)に、当社の記事が掲載されました。

書籍の中では、勇気ある経営大賞(主催:東京商工会議所)の受賞企業がピックアップされており、当社の事業内容や人材育成、採用活用などについて触れております。

このような素敵な書籍に記事掲載していただけて、大変うれしく思うとともに、多くの親御様たちに、息子・娘を入りたいと思ってもらえるように、今後もよりよい会社を目指して参ります。

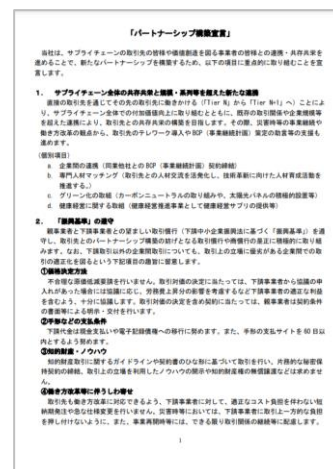


■ “パートナーシップ構築宣言” 公表

当社は、「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」が創設した「パートナーシップ構築宣言」に賛同し、当社の「パートナーシップ構築宣言」を策定・公表いたしました。

「パートナーシップ構築宣言」は、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを宣言するものです。

今後も当社は、サプライヤーとの新たな連携を進めることで、相互の付加価値向上、サプライチェーン全体での付加価値向上を目指してまいります。



サステナビリティピックアップ

■ “エコアクション21 オブザイヤー2022 ソーシャル部門 銅賞” 受賞

「エコアクション21 オブザイヤー2022」のソーシャル部門で当社が銅賞を受賞しました。

「エコアクション21 オブザイヤー」は環境経営レポート及び社会課題解決につながる取組(地域への積極参加、働き方など)を顕彰することで、脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた中小企業における多様な取組を国内に広く発信するとともに、こうした動きを加速化させることを目的とした、一般社団法人持続性推進機構が行っているアワードです。

今回24社の応募の中で銅賞をいただくことができ、とても光栄に思います。2007年から開始した環境経営ですが、今後も継続し、持続可能な社会の実現に向けて、これまで以上に積極的に取り組んで参ります。



■ “健康経営優良法人ブライト500” に認定

健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)にて、「ブライト500」に認定されました。「ブライト500」は、応募した中小規模法人のうち上位500社に贈られる認定です。

健康経営優良法人とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を経済産業省が顕彰する制度です。

ブライト500認定を継続できるよう、今後も更なる健康経営の推進に取り組んで参ります。



■ “日本サーナ(株) 創業40周年”

2023年2月22日に、日本サーナ(株)が創業40周年を迎えました。

日本サーナは1983年に常磐植物化学研究所の子会社として創業開始し、ハーブの力を消費者の皆様の健康にお役立ていただける商品を開発し販売してまいりました。特に、18種類のハーブを使用した「ハーブソース」は、たくさんのお客様のご愛用いただき、令和4年度の千葉県優良県産品にも選ばれました。

日頃よりご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。

日本サーナはこれからも皆様の生活をより健康にしてい
くお手伝いをし続けて参ります。



常磐植物化学研究所の事業とSDGs



■ 植物のちからを健康に。

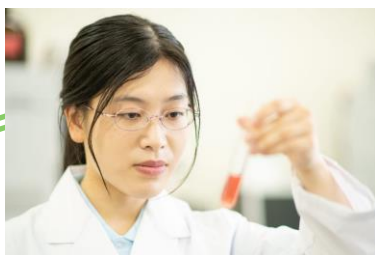
常磐植物化学研究所では、植物成分(ファイトケミカル)を抽出・精製し、医薬品や化粧品、機能性表示食品などに配合される原料を製造しています。当社の名前が消費者の皆様の日や耳に入ることはないかもしれませんが、当社原料は陰ながら、人々の健康に貢献しています。

近年は機能性表示食品制度に対応した素材開発に注力しており、当社原料を配合した機能性表示食品は累計250商品を超える受理実績があります。

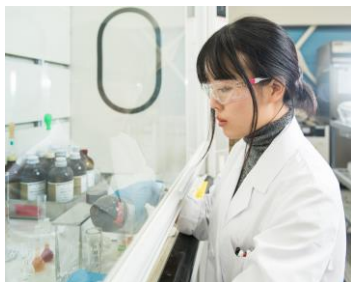
※機能性表示食品制度:

事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品です。販売前に安全性及び機能性の根拠に関する情報などが消費者庁官へ届け出られたものです。

研究開発



品質管理



技術開発

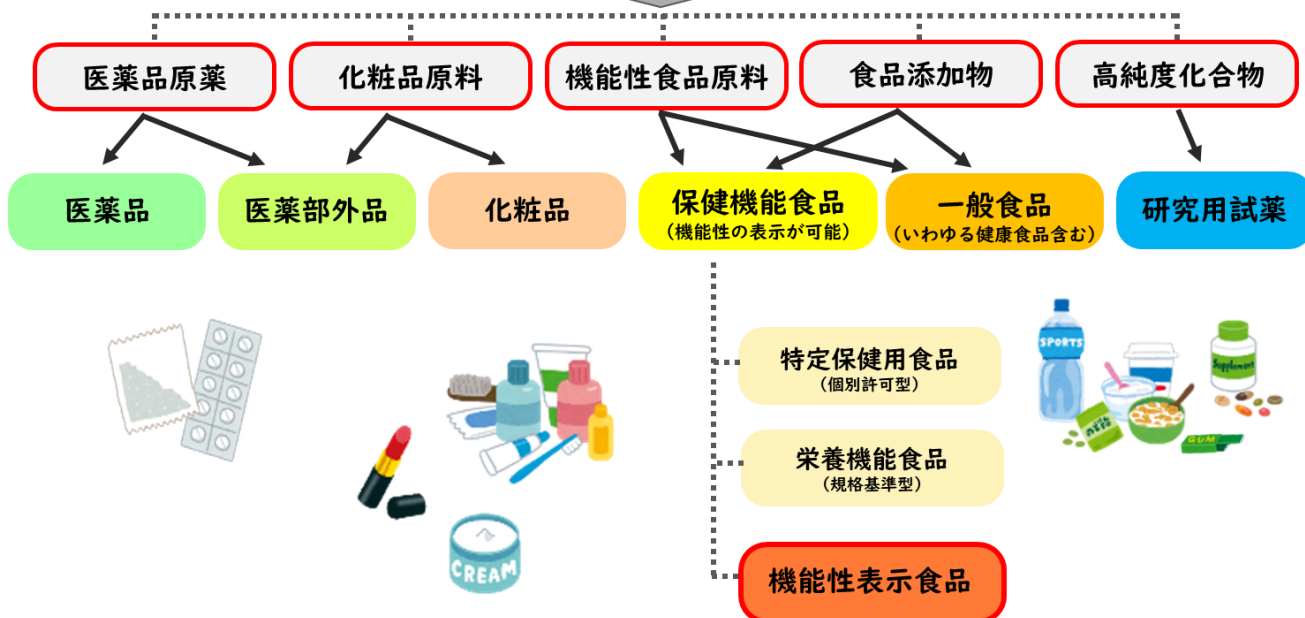
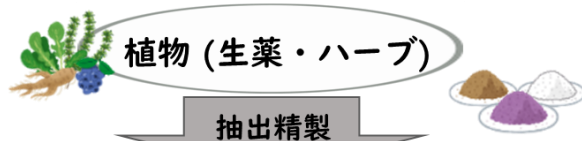


製造



常磐植物化学研究所の製品利用

3 すべての人に
健康と福祉を



機能性表示食品対応素材 12製品

睡眠の質向上
ラフマ

VENETRON®



オーラルケア
月桂樹

LAURESH®



アイケア
ビルベリー

BILBERON®



アイケア
ビルベリー

ビルベリー
冷凍果実



アイケア
マリーゴールド

マリーゴールド
エキス



記憶力・判断力の向上
イチョウ

GINKGOLON



体温維持
ショウガ

Ginger warmer



食後血糖値
クワ葉

クワ葉エキス末



空腹時血糖値
バナバ

コロソリン酸



肌の潤い
コメ

ライスセラミド



骨の成分維持
大豆

ISOMIX



脂肪減少
脂質の吸収抑制
茶

ティアカロン



Environment

環境



べねたむ

環境への
取り組みたむ！

環境への取り組み

エコアクション21
認証番号 0003872

■ エコアクション21(EA21)

当社は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである“エコアクション21(EA21)認証登録制度”に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。

またEA21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

EA21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。

EA21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がEA21認証・登録制度です。

環境経営方針

私たちは環境問題、SDGs(持続可能な開発目標)を重視し、以下の方針を遵守します。
また、「佐倉ゼロカーボンシティ宣言」を支持し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。

1. 環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていく為の経営管理サイクルを強化します。

2. カーボンニュートラルを目標に、省エネルギーおよびCO2排出量削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

3. 循環経済(Circular Economy)に向けた4R(Rethink、Reduce、Reuse、Recycle)の推進

循環経済(Circular Economy)に向けた4R(Rethink、Reduce、Reuse、Recycle)の推進信頼できるサプライヤーからの必要最低限の原料(植物)調達、化学物質使用量や排水量の低減に向けた製法検討(Rethink)を通じて、より環境負荷の少ない製造を行います。また、製造工程の結果生じた植物抽出残渣は積極的に有効活用し、廃棄物を削減(Reduce)します。加えて、プラスチックゴミの分別を徹底し、紙、段ボール、金属等を積極的に再資源化(Reuse、Recycle)します。

4. 環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

5. 環境方針の周知と教育の推進

地球環境と共栄していくため、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。
また、薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献します。

6. 地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

制定年月日:2023年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

EA21 登録事業所の概要

● 事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

● 所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地
<https://www.tokiwaph.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

● 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 丸山 敏明
担当者 EA21事務局 : 内山 晋司、秋庭 愛
TEL 043-498-0007

● 事業内容(認証・登録の範囲)

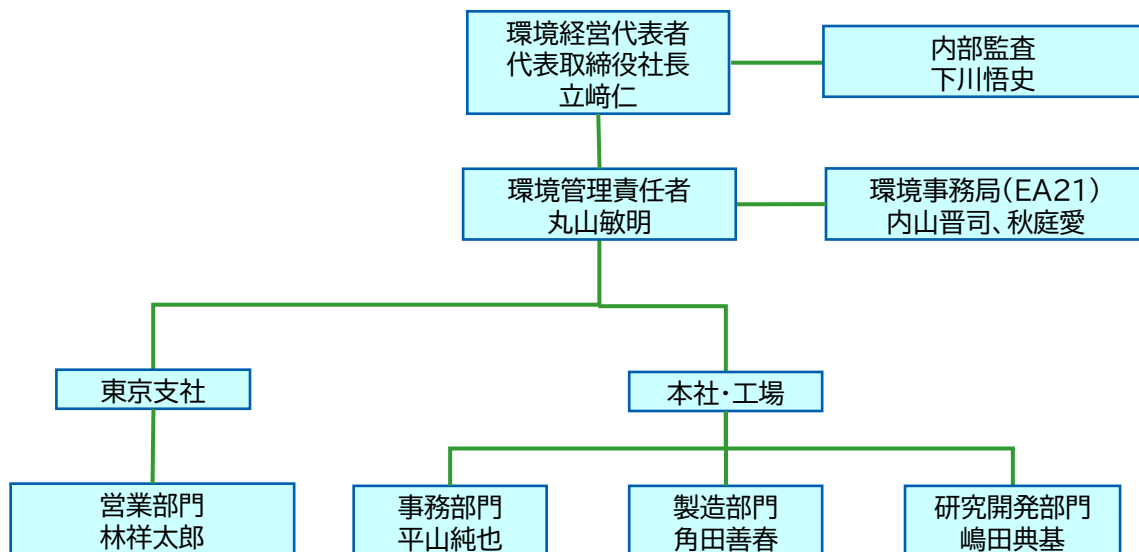
認証・登録番号 : 0003872
認証・登録年月日 : 2009/07/13
認証・登録事業者名 : 株式会社常磐植物化学研究所
対象事業所名 : 本社・工場、東京支社、原料倉庫、排水処理場、
佐倉ハーブ園
所在地 : 千葉県佐倉市木野子158番地
事業活動内容 : 医薬品原薬、化粧品原料、
機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
ハーブ園の運営

● 事業規模

資本金 : 7,750万円
主要製品生産量 : 164 t/年
従業員 : 本社・工場 135名
東京支社 10名 (2023年4月1日現在)
工場延べ床面積 : 本社・工場 9,296㎡
東京支社 138 ㎡

EA21 環境経営組織図及び実施体制

● 環境経営システム組織図



● 役割・責任・権限

環境経営代表者	環境経営に関する統括責任 環境経営方針の策定及び見直しを全従業員に周知 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を用意 環境目標の設定を承認 環境管理責任者の任命 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	環境経営システムを構築、実施し、管理 環境活動実施計画書・記録書を承認 環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境関連法規一覧の作成 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 環境活動実施計画の実績集計
内部監査	内部監査の実施及び内部監査チェックリストの作成 環境経営代表者への内部監査状況の報告及び改善提案
部門責任者	各部門ごとの環境活動実施計画書・記録書を作成 各部門ごとの環境活動実施手順書を作成 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 部門の問題点の発見、是正、予防処置、報告
全従業員	環境方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 個人行動計画表への記入

EA21 2022年度の環境活動内容

● 環境目標及び主な活動取り組み内容一覧

評価完了日:2023年3月31日

	項目	取り組み内容	評価
全施設	二酸化炭素排出量 (電力)の節減	■各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシートの作成) ■冷房28℃、暖房22℃以下設定の徹底 ■機器メンテナンスの手順化・スケジュール化 ■空気清浄機の定期清掃 ■省エネ機器の導入(太陽光パネル設置後の運用確認)	○ ○ ○ ○ ○
	二酸化炭素排出量 (燃料)の節減	■ボイラー管理 ■蒸気漏れ定期点検及び修繕 ■電動式フォークリフトへの更新	○ ○ ○
	一般廃棄物の削減	■廃棄物量・分別の管理 ■生ごみ処理機使用→社員昼食残飯のたい肥化による食品ロスの削減 ■紙類・コピー用紙の削減	○ ○ ○
	産業廃棄物の削減	■産業廃棄物量・分別の管理 ■廃液処理手順の見直し ■ガラス器具破損防止	○ ○ ○
	水使用量(放流量) の削減	■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の使用量の把握と管理 ■工場用水・水漏れ箇所の修繕	○ ○ ○
	化学物質使用量の 削減	■エタノール購入量の管理 ■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認 ■毒劇物試薬における使用量の管理 ■抽出残渣乾燥機の導入・運転	○ ○ ○ ○
	製品についての再 生品の低下	■再生品の把握と管理 ■再生品発生の原因確認	○ ○
東京支社	環境経営効率の向上 [売上の向上]	■新規顧客開拓 ■国内の展示会出展・ウェビナー実施 ■機能性表示食品受理件数の把握	○ ○ ○
本社	地域清掃活動	■月一回の地域周辺美化活動の実施	○

EA21 2022年度の環境活動内容

● 環境活動計画の目標値、実績及びその評価(全事業所)

評価完了日:2023年3月31日

項目	目標値と実績値	評価
電力使用量	目標値:4,092,867kWh 実績値:4,489,824kWh	目標未達成
都市ガス使用量	目標値:807千m ³ 実績値:884千m ³	目標未達成
二酸化炭素排出量 化学燃料換算係数 ガソリン:2.32kg-CO ₂ /L 軽油:2.58kg-CO ₂ /L 灯油:2.49kg-CO ₂ /L 都市ガス:2.24kg-CO ₂ /Nm ³ 電力換算係数: 0.386kg-CO ₂ /kWh	目標値:3,085,708 CO ₂ kg 実績値:1,433,691 CO ₂ kg →2013年度比 約73%削減!	目標達成!
一般廃棄物量	目標値:34.7トン 実績値:26.2トン	目標達成!
食品・産業廃棄物量	目標値:94.0トン 実績値:93.1トン	目標達成!
化学物質使用量	目標値:673.9 千L 実績値:864.0千L	目標未達成
総排水量	目標値:92,698m ³ 実績値:102,406m ³	目標未達成

※電力の二酸化炭素排出係数はシナジアパワー2020年の値0.386kg-CO₂/kWhを使用する。
→2022年11月より、カーボンニュートラル電気に切り替え、それ以降のCO₂排出量は実質ゼロとなった。

※再生利用等実施率の実績値に関する「内訳」:

①発生量 228.0 t ②発生抑制の実施量 837.8 t ③再生利用量 228.0 t ④熱回収実施量 0.0 t

⑤廃棄物の減少実施量 0.0 t ⑥再生利用以外の実施量 0.0t ⑦廃棄物処分実施量 0.0 t

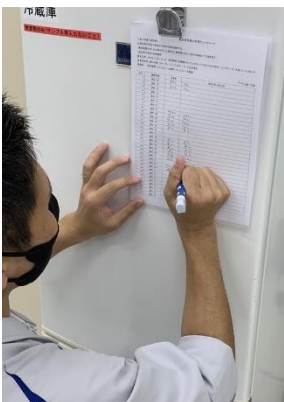
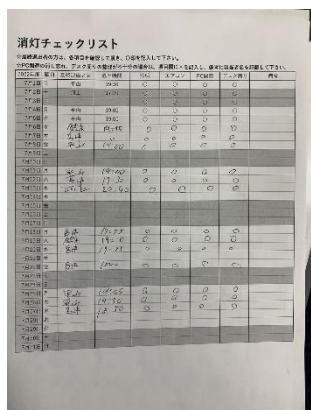
食品循環資源の再生利用実施率(%)=((②+③+④×0.95+⑤)÷(①+②))×100
=100.0%

再生利用についての工夫:工場にて使用している植物原料の抽出残渣を自社で堆肥化し、肥料として再利用。



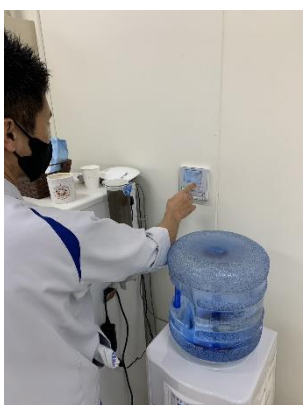
EA21 2022年度の主な環境活動内容詳細

●各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシートの作成)



各施設の最終退出者は電気消灯チェックシートに従って消し忘れ箇所がないか確認し、チェックシートに記載します。

●冷房28℃、暖房22℃以下設定の徹底



エアコンの設定温度は全施設で夏は28℃、冬は22℃となるように徹底しています。

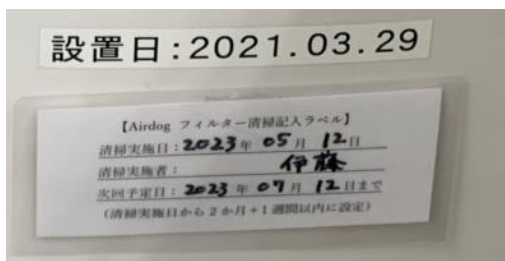
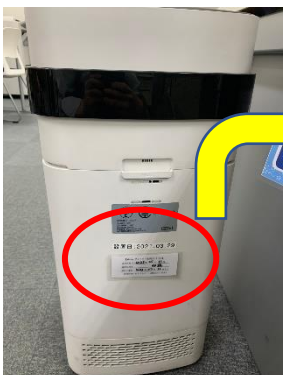
●機器メンテナンスの手順化・スケジュール化

年機器校正実施確認表				作成日:	年	月	日	改定日:	年	月	日	作成者:	承認日:	年	月	日	承認者:	
固有番号	計測機器の名称	型式	校正頻度	標準(トレーサビリティ)	4月	3月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当者	
GC-1	高速液体クロマトグラフ	島津 LC-2030C	1回/年	外部検定機関 株式会社アセス												●外部	主計課 斎藤	
GC-2	高速液体クロマトグラフ	島津 LC-2040C MT	1回/年	外部検定機関 株式会社アセス												●外部	主計課 斎藤	
GC-5	水分測定装置	日東精工アナリテック CA-S10	1回/3年	外部検定機関 日東精工アナリテック			●外部										主計課 斎藤	
GC-6	pH計	塩橋 F-52	使用毎 1回/3年	pH4.7, 9 標準液 株式会社化学 外部検定機関 株式会社アセス	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	主計課 斎藤	
GC-7	分光光度計	日本分光 P-1020	1回/3年	外部検定機関 株式会社アセス	○社内 ()		●外部										主計課 斎藤	
GC-8	電子天秤	ザルトリウス MS205P-100-DI	1回/3年	外部検定機関 ザルトリウス株式会社	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	●外部	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	○社内 ()	主計課 斎藤	
GC-9	定温乾燥機	アドバンテック DRDS20DA	2回/年	標準温度計 ワールド 株式会社アセス	○社内 ()						○社内 ()						主計課 斎藤	
GC-10	酸素測定計		2回/年	標準温度計 ワールド 株式会社アセス	○社内 ()						○社内 ()						主計課 斎藤	
GC-12	真空乾燥機	アドバンテック DRVS20DA	2回/年	標準温度計 ワールド 株式会社アセス	○社内 ()						○社内 ()						主計課 斎藤	
GC-13	オートクレーブ	TOMY LSK-700	1回/3年	外部検定機関 Panasonic			●外部										主計課 斎藤	

機器メンテナンスの手順および年間スケジュール表をPC上にて作成し、安全に電子機器が使用できるようにしています。

■ EA21 2022年度の主な環境活動内容詳細

●空気清浄機の定期清掃



空気清浄機の定期清掃を実施し、電気負担を軽減しています。

●太陽光パネル発電量確認



工場の屋根に、太陽光パネルの設置をしています。

発電した電気を工場での製品製造に活用し、発電時に発生するCO₂の削減につなげています。

現在の設置可能な工場にはすべて設置しており、全事業所で使用される電力の約10%を供給しています。

また、本社棟エントランスにて発電した電気量の見える化を行っており、一日でどれだけCO₂の削減ができているか一目で分かるようになっています。

電気に関しては2022年11月以降、カーボンニュートラル電気に切り替え、実質CO₂排出量はゼロになりました。

その取り組みが社員一人ひとりの節電意識をさらに高め、良い節電の取り組みが実施・継続できています。

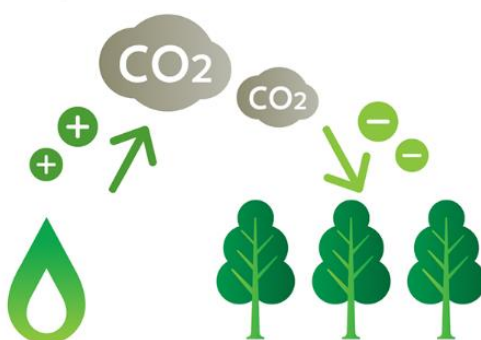
製造部門 角田



EA21 2022年度の主な環境活動内容詳細

●カーボンニュートラル都市ガスの導入

工場で使用する蒸気は全量、**カーボンニュートラル都市ガス※**由来のものを使用しており、tokiwaはカーボンニュートラルLNGバイヤーズアライアンスに加盟しています。カーボンニュートラル都市ガスの導入効果により、2013年度比で41%ものCO₂削減を行いました(2022年度)。



※**カーボンニュートラル都市ガス**は、天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、新興国等における環境保全プロジェクトにより創出されたCO₂ クレジットで**相殺すること(カーボン・オフセット)**により、地球規模では、この天然ガスを使用してもCO₂ が発生しないとみなされるLNG を活用した都市ガスです。

さらに、都市ガスだけでなく、2022年11月には電気もカーボンニュートラル由来のものへ切り替えており、実質tokiwaにおいての直接的な温室効果ガス排出源は**フォークリフトの排気ガスのみ**となっております。

今後も引き続き、多様な技術を積極的に取り入れながら、早期のCO₂排出量実質ゼロを実現すべく、努めてまいります。

製造部門 河道



■ EA21 2022年度の主な環境活動内容詳細

●ボイラー管理



ボイラーの運転・停止時刻も把握できるように、毎日記録もしているたむ！



各工場に供給されている蒸気の止め忘れ防止対策として、ホワイトボードを用いて見える化しています。

●蒸気漏れ定期点検および修繕



毎日の点検が蒸気の排出削減につながるたむ！



施設保全課の方々により、毎日安全に蒸気の使用を行っており、蒸気漏れ箇所はすぐに修繕し、ムダな蒸気使用を防いでいます。

●電動式フォークリフトへの更新



2025年には既存のガソリンフォークはすべて電動式フォークへ更新し、ガソリン使用をゼロにする計画となっています。

製造部門 角田



■ EA21 2022年度の環境活動内容詳細

●第3社算定機関によるサプライチェーンCO₂排出量の算出

2013年度および2021年度のCO₂排出量について、第3社算定機関より「温室効果ガス排出量検証」を実施いたしました。その結果、下記の結果となりました。

2013 年度 検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	2,682.7
スコープ 2	2,276.2

2021 年度 検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	40.5
スコープ 2	3,339.3

サプライチェーン排出量

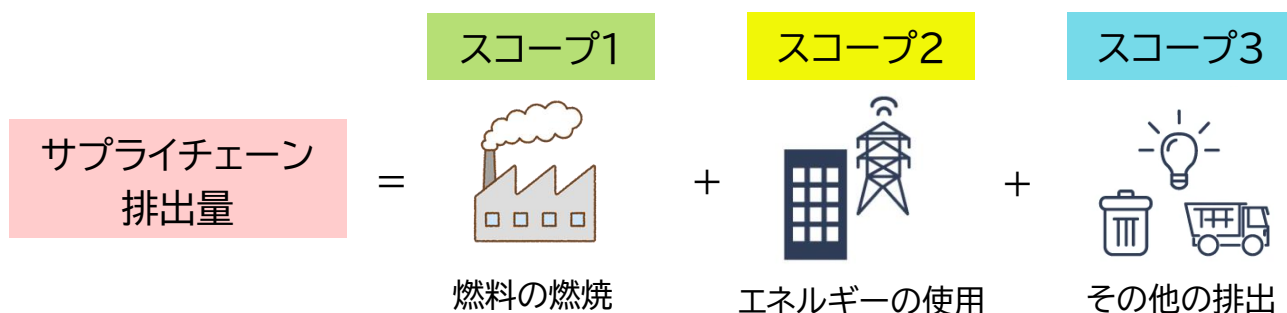
「事業者自身」と「事業活動において関わるあらゆるところ」から排出される温室効果ガス総量

1) スコープ1温室効果ガス排出量

事業者自らの燃料燃焼や工業プロセスに伴って直接的に排出されるCO₂排出量

2) スコープ2温室効果ガス排出量

他社より供給された電力、蒸気などのエネルギー使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量



※1算定対象：本社および工場、東京支社

※2算定方法：温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度および事業者の算定手順

※3電力の排出係数：電気事業所の調整後排出係数を利用

2030年までにはスコープ3まで算出し、トータルサプライチェーン排出量を明確にする予定です。

事務局 内山

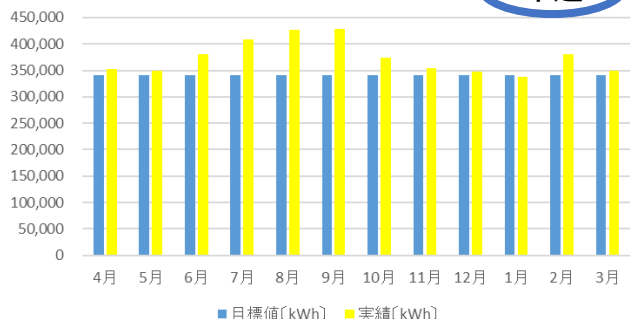


EA21 環境活動の実績と評価

● 2022年度環境実績(全社総合データ)

2022年度電力使用量

未達

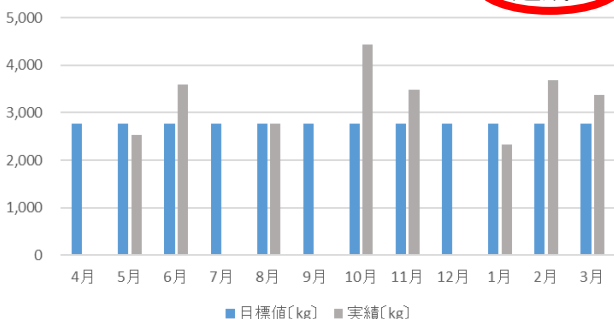


コメント

品目増産・交代勤務の開始等、新規竣工したスプレッドライの稼働も相まって、目標から10%オーバーとなった。次年度は今期実績を踏まえた削減計画を立て、DXも取り入れながら省電力化を行っていく。

2022年度一般廃棄物量

達成!

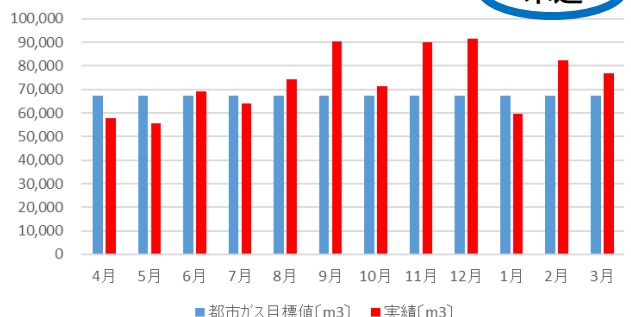


コメント

2022年度は2021年度と比較して約1%もの廃棄物削減をし、目標を達成できた。年度末には廃棄物が増える傾向にあるため、管理体制を強化する。

2022年度都市ガス使用量

未達

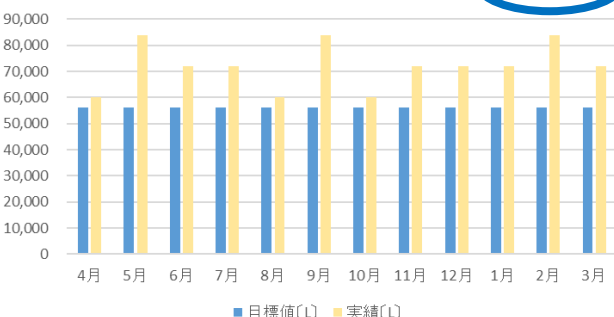


コメント

都市ガスについては2021年度比で5%増となった。生産品目によりガスの使用が多くなる月と少なくなる月があるので、今までの省ガスの取り組みを継続し、さらに対策を練っていく。

2022年度化学物質使用量

未達

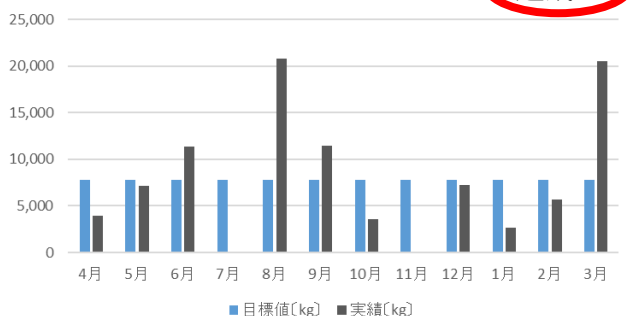


コメント

有機溶媒を使った生産が2021年度よりも増加し、目標数値を下回ることができなかった。2023年に関しては2022年のデータを参考に実態に合った目標・計画を立て、残渣乾燥機も今以上に有効活用していく。

2022年度食品・産業廃棄物量

達成!

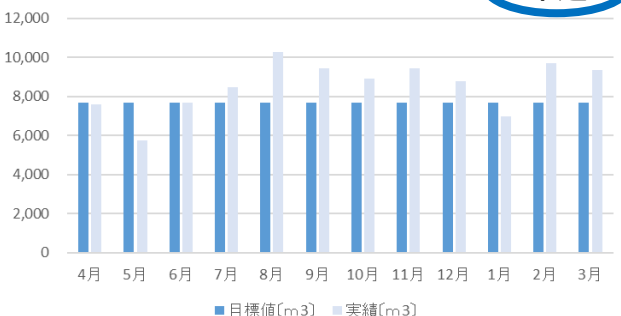


コメント

8月、3月に生産本部からの産廃が非常に多く発生したが、目標数値をやや下回った。今まで分別されていなかったポリフィルムやラテックス手袋などはプラスチックごみとして廃棄する仕組みが整ってきているため、分別を継続していく。

2022年度水使用量

未達

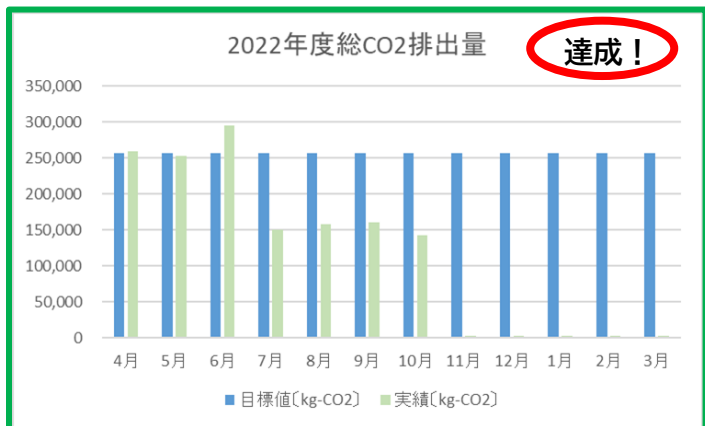


コメント

年間で目標数値から約10%増であり、ほとんどの月で目標数値未達となってしまったため、2023年度は実際の生産の計画に合わせた目標を立てていく。

EA21 環境活動の実績と評価

● 2022年度環境実績(全社総合データ)



コメント

二酸化炭素排出量に関しては電気と化石燃料から換算して算出している。2022年6月からLNGをカーボンニュートラル化されたLNGへ全量変換、および2022年11月からカーボンニュートラル化された電気に全量変換を行い、現在当社事業所内で発生しているCO₂はフォークリフトの排気分のみとなっている。
2013年比較で総二酸化炭素排出量を50%以上削減することに成功した。
一方で、エネルギーはクリーンなものに置き換えるとはいえ、一人一人の省エネ活動は継続または強化していき、早々にカーボンニュートラルの達成を行う。

EA21 環境活動の取組計画

● 2023年度 主な取り組み予定

	項目	取り組み内容
全施設	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシートの作成) ■冷房28℃、暖房22℃以下設定の徹底 ■太陽光パネルの発電量確認
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ボイラー管理 ■蒸気漏れ定期点検及び修繕 ■電動式フォークリフトへの更新
	一般廃棄物の削減	■廃棄物量・分別の管理 ■資源ごみ回収量の集計及び金額集計 ■生ごみ処理機使用→社員昼食残飯のたい肥化による食品ロスの削減
	産業廃棄物の削減	■産業廃棄物量・分別の管理 ■ガラス器具破損防止
	総排水量の節減	■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の使用量の把握と管理
	化学物質使用量の削減	■エタノール回収量の把握と管理 ■エタノール購入量の管理 ■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認 ■毒劇物試薬における使用量の管理 ■抽出残渣乾燥機からの有機溶媒回収量の記録
	製品についての再生品の低下	■再生品の把握と管理 ■再生品発生の原因確認
東京支社	環境経営効率の向上[売上の向上]	■新規顧客開拓 ■国内の展示会出展・ウェビナー実施
本社	地域清掃活動	■月一回の地域周辺美化活動の実施

■ EA21 中期計画

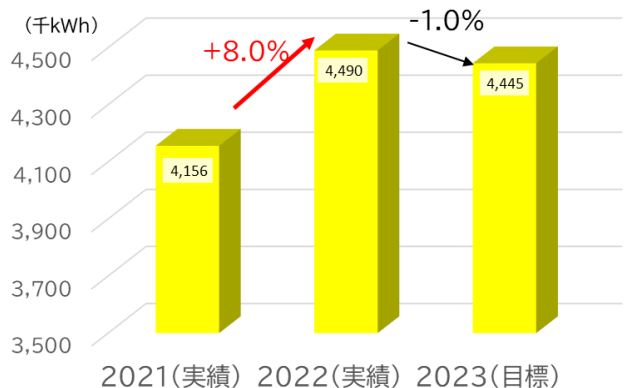
● 2021～2023年度の目標計画

2022年6月に「CNLバイヤーズアライアンス」の加入、および2022年11月にカーボンニュートラル電気に切り替えたことにより、当社で使用するエネルギーのほぼ全てがCO₂フリーとなった。

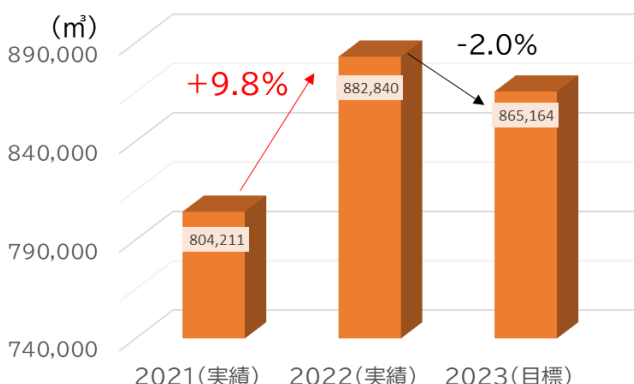
一方で、産業廃棄物や化学物質使用量、水使用量に関して目標数値が達成できていない内容が多く、これからの課題としては「生産量の増加に伴った目標数値の策定」および「資源の再利用」をクリアすべき項目として浮き彫りとなった。

2023年度以降、生物多様性の観点を考慮し、資源の最大利用を図りながら日々の生産活動に取り組んでいくことを目指す。

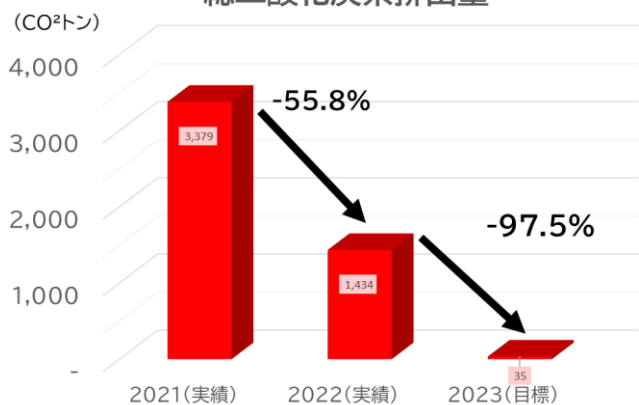
総電気使用量



都市ガス使用量



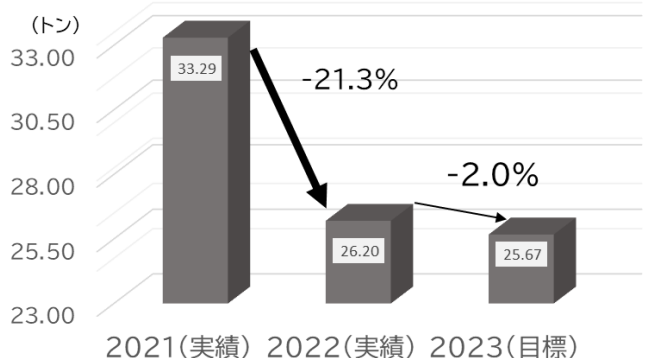
総二酸化炭素排出量



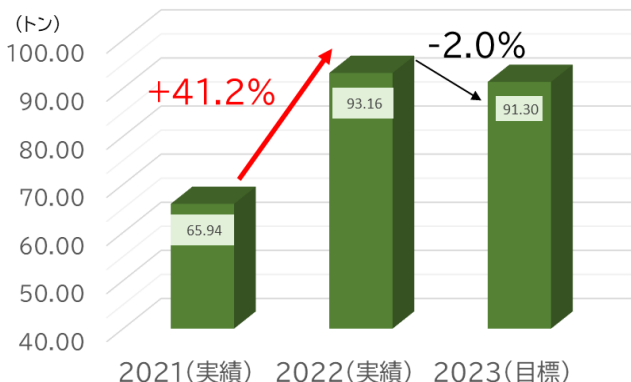
■ EA21 中期計画

● 2021～2023年度の目標計画

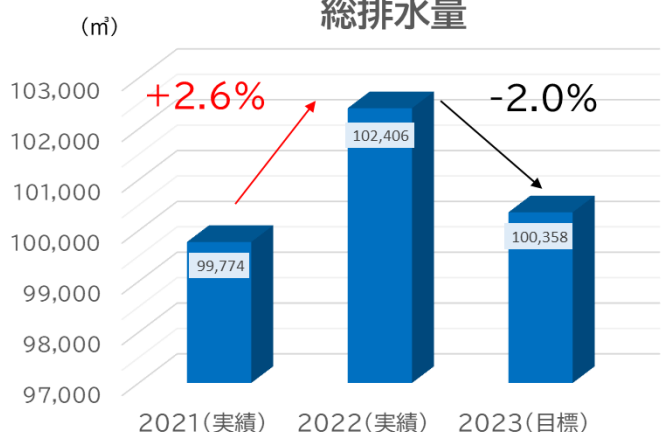
一般廃棄物量



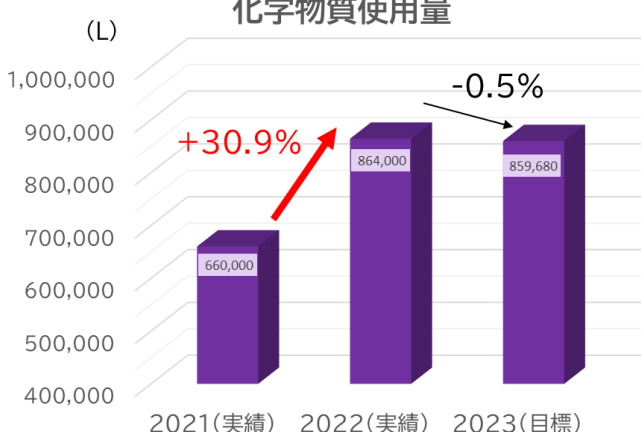
食品・産業廃棄物量



総排水量



化学物質使用量



■ その他環境活動取り組み例

【ゼロエミッション活動】

植物資源を無駄なく使用し、廃棄するものを少なくすることにより、環境への負荷を軽減します。

植物エキスの製造後に排出される搾りかす、及び排水処理場の余剰汚泥を肥料へリサイクルするなどの取り組みを行っています。

リサイクルされた肥料は作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。



抽出残渣を堆肥に



ビルベリー抽出残渣が使われた箱



【抽出残渣乾燥機導入】

抽出残渣に残っている抽出溶媒(有機溶媒)を乾燥工程で回収し、その回収した溶媒を再精製することで、再利用できる状態にしています。これにより、化学物質の使用量抑制や、廃棄物における環境負荷の低減につながります。

【水質に配慮した生産活動】

工場での水資源の無駄づかいをなくすための改善を積み重ねるとともに、使用後の排水をきれいにして自然に還すために水質保全に取り組んでいます。工場に併設されている排水処理設備においては、「活性汚泥処理法」を採用しています。

微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることで、汚れを取り除いています。



■ その他環境活動取り組み例

【周辺地域美化活動】 月1回開催！

月に一回の頻度で、千葉本社敷地に面している道路脇のゴミ拾いとあいさつ運動を行っており、近隣の諏訪神社の清掃も実施しております。

近隣の皆様が気持ちよく一日をスタートできるように、これからも美化活動に努めて参ります。



【グリーン調達・グリーン購入】

グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。

持続可能な社会の構築のために、使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざします。

【マイ箸・マイコップの使用】

昼食時にはマイ箸・マイコップを使用しています。
割り箸・紙コップの使用が当たり前だった以前に比べ、エコ意識が高まっていることを実感しています。



【食品ロス低減に向け生ごみ処理機活用】



屋内生ごみ処理機



自社ハーブ園の土

昼食時の食べ残しを微生物の力でたい肥化し、食品ロスの低減に努めています。
出来たたい肥は、自社ハーブ園で新たな植物を育てるために使用されています。

EA21 2022年度 環境活動報告

● 環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

違反、訴訟等の有無: 下記のように環境関連法規制等の違反はありません。

また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。

なお関係当局からの違反等の指摘は、過去11年間ありません。

2023年3月31日時点

設備・項目	環境関連法規	届出	定期報告	定期点検	その他
全事業所	温対法		○		
	下水道法		○	○	
	省エネ法	○	○		
本社・工場	工場立地法	○			
	労働安全衛生法			○	健康診断
工場設備	振動規制法	○		○	
	騒音規制法	○		○	
工場、蒸留塔、地下タンク等	消防法	○		○	
スプレー乾燥機、残渣乾燥機	悪臭防止法	○		○	
工業用井戸	工業用水法		○		許可有
高压ポンプ等	高压ガス保安法			○	
冷蔵、冷凍コンテナ等	フロン排出抑制法				該当機器の調査・点検
対象家電機器	家電リサイクル法			○	
食品廃棄物	食品リサイクル法		○		
自動車	自動車リサイクル法			○	
ディーゼルトラック	NOx・PM法		○	○	
堆肥場	肥料取締法	○		○	
一般廃棄物及び産業廃棄物	廃棄物処理法		○		マニフェスト管理

● 代表者による評価と見直し

総括

当年度最大の環境への取組みは、佐倉工場で使用する都市ガスを6月から全量カーボンニュートラルLNGへ、電力を11月から全量カーボンニュートラル電力へ切替えたことである。本取組により、CO₂排出量を**58%**(対2021年)、**73%**(対2013年)削減できた。2023年度末に、99%(対2013年)削減する計画。

また、2023年度、本社で使用する電力使用量を削減するため、設置可能な全ての工場屋根に太陽光パネルを設置した。自家発電能力が当年度10%強から新年度20%強になる計画。

一方、生産量増加に伴い、水、廃棄物、化学物質の使用量が増加しており、資源の使用量を最小に、再利用を最大にしていく必要がある。

新年度は、太陽光パネルの更なる追加設置に加え、水対策をEA21の重点改善課題とする。水使用量を削減すると共に、廃水処理能力を向上させ、より環境に優しい工場運営を目標にしてい

Society

社会



べねたむ

社会への
取り組みたむ！

社会への取り組み



当社は、美化活動や佐倉ハーブ園の開放などの取り組みを通じ、地域・社会への貢献を推進しています。

■ ナイスハートバザールへの後援

2022年9月16日(金)~9月20日(火)にイオンモール幕張新都心で開催された『ナイスハートバザール 2022 in ちば』に、当社は後援企業として協力しました。

ナイスハートバザールは、全国の社会就労センターで生産・製造された製品を展示・販売し、販路の拡大、障がい者の工賃・賃金水準の向上を図ると共に、多くの方々の理解を深め、障がいのある方々の社会参加を促進することが主な目的で行われているイベントです。

人々が平等に活躍できる社会づくりに少しでも貢献できたなら幸いです。



■ くるみ幼稚園への訪問・植物の手入れのアドバイス

2022年7月5日に、5年前(2017年)にブルーベリーとニッケイの木を寄贈した「くるみ幼稚園」を訪問し、植物の手入れの仕方について少しアドバイスをさせていただきながら、先生方の、植物を通じた教育に対する思いなどをお聞きました。

植物の存在は見て楽しむだけでなく、虫などの生き物と触れ合う場所になったり、木から落ちた枝や木の実で工作をしたりと、様々な形で園児たちの教育に貢献しているようです。

これからも、植物を通じてたくさんの園児たちが笑顔になってくれたら嬉しいです。



■ 薬用ハーブ辞典

佐倉ハーブ園ホームページ内の「薬用ハーブ辞典」では、29種類の西洋ハーブや東洋ハーブについて、学名、成分、生理活性等の情報を提供しています。

植物成分に関する情報の発信を通じた薬用植物の有効利用へ、今後も内容を充実させていきます。



▼佐倉ハーブ園ホームページ

<https://sakura-herben.tokiwapaph.co.jp/>

■ 佐倉ハーブ園

本社工場に隣接した場所に“佐倉ハーブ園”を開園し、誰でも気軽に立ち寄れるよう、無料開放しています。約5000㎡の広い敷地に、1000種類以上の薬用植物や生活に役立つハーブなどを植栽しています。

四季折々、触れて、見て、薫って、味わって、五感で楽しめます。毎月1回、ボランティアの皆様と共にハーブ園を整備する日を設け、様々なハーブの植え付けや収穫、切り戻し、株上げなどを行っています。

今後も地域の皆さんの憩いの場、そしてハーブを身近に感じ、学ぶことができる場として皆さんにご利用していただきたいと思います。



▼HP▼ ▼facebook▼



また、佐倉ハーブ園では、年間を通じて様々な体験イベントを開催しています。2022年度は計7回のイベントを開催し、多くのお客様にご参加していただきました。



▲上から見た佐倉ハーブ園▲



▲色とりどりのハーブ▲



▲ボランティアの皆様と▲

様々な人に佐倉ハーブ園に来ていただきたいという思いから、ハーブ園内のバリアフリー化工事を行い、車いすやベビーカーをご利用の方もご来園いただきやすくなりました。

より多くの方々にハーブの魅力を伝えていきたいです。



▲舗装された通路▲



▲車いす・子ども優先通路▲



▲ハーブ石鹸作り体験▲



▲ジャックオランタン作り体験▲

季節ごとに行うイベントでは、子供から大人まで幅広い方々にご参加いただいています。

参加者の皆さんの笑顔を見ると、私たちも元気をもらえます。

今後も様々なイベントを通して、皆様にワクワクを届けてまいります。

■ 地域消防団への参加

佐倉市消防団第4分団に参加しています。
佐倉市の防災訓練に参加すると共に歳末警戒活動などを通じて、火災予防を呼びかけています。



■ 佐倉の秋祭りへの参加・協賛

10月15日(土)・16日(日)に、「佐倉の秋祭り」が開催されました。

当社も祭りに協賛しており、有志の社員が当社のオリジナル法被を着て参加し、山車を引いて、一緒に祭りを盛り上げました。

久しぶりの地元のお祭りに、会場は大盛り上がり子供から大人まで、たくさんの人が楽しそうに祭りに参加していました。

地域が活気づくと私たちもとても嬉しいです、元気をもらえます。
これからも地元へ貢献するべく、地域のイベントに積極的に参加してまいります。



■ 印旛沼ダンボールイカダCUP出場

9月4日(日)に開催された『印旛沼ダンボールイカダCUP』に企業枠で参加いたしました。

ダンボールイカダCUPは段ボールとガムテープのみでオリジナルイカダを作成し、印旛沼を漕いでその記録を競うというイベントです。当社からも社長含む4名で初参戦し、tokiwaの名が施されたオリジナルイカダで挑みました。

結果は“1分59秒”で、なんと今大会最速のタイムでした。

次年度も、今回の記録を上回るタイムを目指したいと思います。
また、このように地域のイベントにも積極的に参加し、佐倉市の活性化に貢献してまいります。



■ 日本橋薬祖神への奉納

10月17日に日本橋の薬祖神で薬祖神祭が行われ、薬への感謝と、一年の無病息災をお祈りしてきました。
今後も、歴史ある日本橋の薬祖神社の発展に協力して参ります。



教育への取り組み



常磐植物化学研究所は実験講座、体験実習を通じて科学が身近にあることを体感してもらい、次世代の科学技術系人材の育成の貢献に取り組んでいます。

戦後初の植物化学企業として、製品の販売だけでなく、化学発展の一助になればと考えています。

子供が科学技術に親しみ、学ぶことができる環境や科学技術に才能を有する子どもを見出し伸ばすことができる環境を提供するため、理数実習の充実に努めています。

■ 高校生向けCSRの開催 ～第11回佐倉アカデミア～

2022年7月28日に、千葉県立佐倉高等学校の生徒20名を対象に、植物成分を精製する実験講座“佐倉アカデミア”を行いました。2012年から行っているこの佐倉アカデミアは、今回で11回目。実験内容はカラム精製の原理を学びながら、抽出液からアントシアニンを精製するというものです。

生徒の皆さんは、講義は真剣な眼差しで聞き、実験はグループで楽しそうに行っていました。

実験講座の後は、工場・ハーブ園の見学をしました。実験で行った精製が、工場ではどのような機械・スケールで行われているのか説明を受けると、驚きの表情をしていました。

今回の実験講座を通じて皆さんが少しでも科学や植物化学に興味をもってくださり、この中から理系の進路や植物化学の研究者など志す方が少しでも現れれば、とてもうれしく思います。



～植物化学の講義・ハーブ園見学～

2022年5月2日に、千葉県立幕張総合高等学校看護科の3年生が、校外学習で来社しました。

今回は薬理学の学習の導入ということで、甘草を題材に、植物がどのようにして人の生活を支え、健康に役立っているのかを薬理的な視点でお話しました。

講義の後はオンラインで工場・研究棟見学を行いました。後半は佐倉ハーブ園に移動し、ハーブティーを飲んだり直接植物に触れて観察したりと、五感で楽しんでいただきました。

今回学んだことや感じたことを活かして、これからの勉学に励んでいただけたら嬉しいです。



■ 中学生向けCSRの開催

～ハーブ園での学習①～

2022年4月28日に、佐倉市立南部中学校の1年生が植物の学習の一環として佐倉ハーブ園に来園し、ハーブ園内の散策と、ハーブの種まき・挿し木体験を行いました。

生徒の皆さんが楽しそうに取り組んでいて、こちらも元気をもらえました。



～ハーブ園での学習②～

2022年9月14日に、千葉大学教育学部附属中学校の1～3年生が選択授業の一環として来園しました。

普段、なかなか見ることのない珍しいハーブに皆さん興味深そうに目をキラキラさせながら観察していました。

今回の来園が、『植物』について興味・関心を持つきっかけになってもらえたら幸いです。



～SDGsの講義・会社見学～

2022年11月22日に、佐倉市立南部中学校の1年生を対象に、SDGsに関する講義、研究棟・工場見学(オンライン)、佐倉ハーブ園の見学を実施しました。

SDGsの講義では、当社が実際に取り組んでいるSDGs活動を紹介しながら、SDGsが目指す世界や役割についてお話ししました。研究棟と工場のオンライン見学の時間では、様々な質問が飛び交いました。後半は佐倉ハーブ園へ移動し、最後には園内の植物を題材にしたクイズを出題し、とても盛り上がりました。

今回の教育CSRを通して、植物科学に興味を持ったり、持続可能な世界を実現させるために「自分にできることは何か?」と思い、考え、行動してくれる子供たちが増えてくれたら嬉しいです。



～職業人セミナー～

2023年1月27日に、佐倉市立南部中学校の1年生を対象に実施された「職業人セミナー」に、講師として参加しました。

「職業人セミナー」は、実際に働いている人の気持ちを聞くことで職業観を広げること、働いている人と交流することで心を育むことを目的としたセミナーで、当社からは「営業職」についてお話しさせていただきました。

生徒の皆さんがこの先、将来の夢や進路・職業を考える時に今回のセミナーの話を思い出して、参考にしてくれたら嬉しいです。



■ 小学生向けCSRの開催

2022年6月22日に、佐倉市立根郷小学校3年生の児童88名が、佐倉市内を巡る校外学習の一環で佐倉ハーブ園に来園し、ハーブ園の見学を行いました。

初めて知る植物ばかりで、興味津々に匂いを嗅いだり、触ってみたりと、五感を使ってハーブや薬用植物について楽しく学んでもらいました。



子供たちが楽しそうに植物と触れ合う姿に、私たちも嬉しくなりました。

■ 大学生向けオンライン講義

～ファイトケミカルと機能性表示食品開発～

2022年11月19日に、法政大学のオンライン講義「植物医科ビジネス論」にて、立崎社長が講義を行いました。法政大学での講義は今回でちょうど10回目となりました。

今回は、「ファイトケミカルと機能性表示食品開発」と題し、当社の事業内容や植物に関する研究実績、そして立崎社長のこれまでの人生についてを話しました。

オンラインでの講義でしたが、質疑応答も活発に行われ、終了後のアンケートにもたくさんの感想をいただきました。

今回の講義が、学生の皆さんにとって実りのある時間となったならうれしく思います。

～HACCPに関する講義～

2022年11月18日に、東京農業大学の学生を対象に、HACCP管理に関する特別講義をオンラインにて開催しました。

品質保証室の社員が講師となり、当社が原料メーカーとしてどのように製品の品質・安全を守っているのか、どのような管理体制をとっているのかを紹介しました。



学生の皆さんに、品質・安全を守る使命感と大切さを伝えることができたら幸いです。

■ 佐倉サイエンスアカデミーの開講

2022年10月28日に、第2回佐倉サイエンスアカデミーを開講しました。

佐倉サイエンスアカデミーとは、世界で活躍されている研究者の方々に、植物化学(科学)の歴史から最新トピックスまで、幅広い領域をわかりやすくお話していただく、オンライン講義です。

第2回となる今回は、江面浩先生(筑波大学・生命環境系・教授、筑波大学・理工情報生命学術院・学術院長、筑波大学・つくば機能植物イノベーション研究センター特別教授)を講師にお招きし、「ゲノム編集作物とSDGs」をテーマに、ゲノム編集技術が農作物改良の面から食料の安定確保や健康増進に寄与できる技術であることをお話いただきました。



植物化学発展への取り組み



常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

■ 共同研究（武庫川女子大学）

～ハイビスカス抽出物による生活習慣病改善に関する基礎的検討～

武庫川女子大学薬学部薬学科・高明教授との共同研究にて、当社ハイビスカス抽出物が糖新生の阻害および細胞へのLDLコレステロール取り込み促進作用を持つ可能性が示唆されました。

糖新生の阻害およびLDLコレステロール取り込みを促進することは糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病への効果が期待されます。

本研究成果に関して、2023年3月25日(土)～28日(火)に開催された日本薬学会第143回年会において、ポスター発表を行いました。

～マテ熱水抽出物の肥満モデルラットにおける体重増加抑制効果及び3T3-L1脂肪細胞におけるAMPKを介した細胞内脂肪蓄積抑制効果について～

武庫川女子大学薬学部薬学科・高明教授との共同研究にて、当社マテエキスを肥満モデルラットに投与することによる、体重の増加抑制作用が明らかになり、脂肪前駆細胞を用いた試験ではマテエキスによる効果がAMPKに依存していることが示唆されました。

マテエキスの作用機序の特徴としては、AMPKやIR β などが関与する複数の脂質代謝のシグナル経路を活性化させることが挙げられます。

さらに今回の研究では、食欲調節ホルモンのレプチンや炎症サイトカインのIL-6などに対しても効果が示され、マテエキスがメタボリックシンドロームに対して幅広く効果を持つ可能性が期待されます。

本研究成果に関して、2023年3月25日(土)～28日(火)に開催された日本薬学会第143回年会において、口頭発表を行いました。



■ 研究機関・大学の共同研究

(研究機関) 国立医薬品食品衛生研究所、東京都医学総合研究所 等
(大学等) 星薬科大学、北里大学、武庫川女子大学、横浜市立大学 等

■ 研究報告

- ・Anti-skin Aging Activities of *Sideritis scardica* and 3 Flavonoids With an Uncommon 8-Hydroxyl Moiety
- ・“健口第一”健康の基本はお口から。tokiwaの「LAURESH®」でオーラルケア
- ・Successful Commercialization of an Anti-Aging Ingredient Based on Advanced Research: Latest Advancement of SIRTMAX® (*Kaempferia parviflora* extract) in SIRT1 Activation and Clinical Study
- ・ブシモノエステルアルカロイドの相対モル感度(RMS)を用いた日本薬局方定量法の検討
- ・Characterization and Utilization of Disulfide-Bonded SARS-CoV-2 Receptor Binding Domain of Spike Protein Synthesized by Wheat Germ Cell-Free Production System
- ・Assessment of in vitro, in vivo, and Clinical Safety of SIRTMAX® a Standardized *Kaempferia parviflora* Rhizome Extract
- ・新規合成経路に基づくペントシジン合成阻害剤の探索
- ・in vitro下でのペントシジン合成阻害剤の探索
- ・HPLC analysis of ammonium glycyrrhizate listed in the European, United States, and Japanese Pharmacopoeias under reported and modified conditions: revision of the peak assignment for 18 α -glycyrrhizin in the European and United States Pharmacopoeias
- ・ハイビスカス抽出物による生活習慣病改善に関する基礎的検討
- ・マテ熱水抽出物の肥満モデルラットにおける体重増加抑制効果及び3T3-L1脂肪細胞におけるAMPKを介した細胞内脂肪蓄積抑制効果について

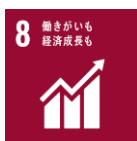
■ 植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛

植物化学研究会、日本生薬学会、日本薬史学会、日本薬学会、日本抗加齢医学会、日本農芸化学会、日本未病学会、薬用植物栽培研究会、和漢医薬学会、ヨウ素学会、日本植物バイオテクノロジー学会、日本環境変異原ゲノム学会

■ 植物化学に関連する各種加盟団体

日本漢方生薬製剤協会、(公社)東京生薬協会、(公社)東京医薬品工業協会、
日本医薬品原薬工業会、(一社)千葉県製薬協会、(一社)日本食品添加物協会、
(公財)日本健康・栄養食品協会、(一社)日本栄養評議会、(一社)日本健康食品規格協会、
化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、(一社)日本ブルーベリー協会、
(一社)カシス協会、千葉県食品産業協議会、(一社)健康食品産業協議会

健康経営への取り組み



当社は、創業100周年に“世界一の植物化学企業”となることを目標に掲げています。その目標は、サステナブルな従業員なしには到達できないものです。当社では、従業員の健康を第一に考えた健康経営を推進しています。

常磐植物化学研究所 健康経営方針 waku-waku健康宣言

常磐植物化学研究所は、「社員の幸福と社会の発展に貢献する」ことを経営理念に掲げており、社員の健康こそが社員の幸福と全事業におけるサステナビリティ活動の根幹であると考えます。そこで、独自の健康経営として、「waku-waku健康宣言」を実施し、社員の健康増進に努めます。

1. 感謝とワクワク

人、社会、そして植物に生かされていることに感謝し、ワクワクを大事にします。

2. ベジファーストと噛む習慣

健康食堂にて野菜を中心とした健康的な昼食を社員に提供します。
300グラム(キャベツ 1/4 玉相当)以上の野菜や果物の摂取と、
野菜を先に食べること(ベジファースト)及びよく噛んで食べることを推奨します。

3. 適度な運動習慣

毎日のラジオ体操の実施と、4,000歩／日以上ウォーキングを推奨します。

4. 「健康経営サプリ®」の提供

「健康経営サプリ®」を通じ、健康増進の機会を提供します。

5. 健康的な知識・意識の向上

健康習慣についての情報提供と、学習の機会を定期的に設けます。

6. 健康診断の実施と人間ドックの推奨

健康診断の検査項目を充実させ、さらに、人間ドックの受診を推奨します。
また、ストレスチェック実施後のフィードバックを行います。

制定年月日:2023年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

健康経営優良法人ブライト500認定

健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)にて、「ブライト500」に認定されました。「ブライト500」は、応募した中小規模法人のうち上位500社に贈られる認定です。

健康経営優良法人とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を経済産業省が顕彰する制度です。

ブライト500認定を継続できるよう、今後も更なる健康経営の推進に取り組んで参ります。



ラジオ体操指導員認定の取得

2022年4月4日にNPO法人全国ラジオ体操連盟主催の、ラジオ体操指導員認定取得のためのオンライン講習が行われ、70名の社員が参加しました。

正しいラジオ体操を行うことで、運動の機会となり、健康増進につながります。毎日のラジオ体操をしっかりと行い、健康な一日を過ごせるようにしていきます。



健康経営サプリー®

当社の事業を活かした健康経営への取り組みの一つとして、“健康経営サプリー®”を導入しています。

健康経営サプリー®は、社員の衆知を結集し、創業から70年以上にわたり研究し続けてきたエビデンス豊富な当社の植物エキスをふんだんに配合した、“社員の、社員による、社員のための”オリジナル処方サプリメントです。

健康経営サプリー®は、福利厚生の一環として無料で提供しています。

社員の健康に寄与することはもちろん、社員が自社の製品について知るきっかけにもなっています。

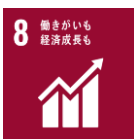
また、健康経営サプリーを社外の方に紹介すると、同様のサービスを導入したいという声を多くいただいたことから、2022年1月より、企業への販売もスタートしました。



当社の睡眠素材「ベネトロン®」とGABAを組み合わせた「健康経営サプリー ラフマ&GABA」▶



働きやすい環境づくり



当社は、一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組んでいます。

■ ワークライフバランス

長時間労働の削減、休暇の取得促進、様々な働き方を通じて従業員の健康を守り、仕事とプライベートの調和のとれたワークライフバランスを推進しています。

● 残業時間の削減

業務の効率化を図り、残業時間の削減に向けて取り組んでいます。19時には本社の照明が自動的に消灯するようになっており、遅くまで残らないように対処しています。また、月2回のノー残業デーを設定しています。

● 有給休暇取得促進

1日、半日単位その他、朝または夕方における2時間単位での有給休暇付与制度を導入し、取得率向上につなげています。

また、年に一度、有給休暇に併せて食事券を付与する『ハッピーファミリーデー』の取り組みも、2009年より継続しています。

● 様々な働き方

社員の生活環境に合わせた働き方を選べるようにしています。

在宅勤務制度、時差出勤制度、選択的週休3日制度、兼業・副業制度 等。

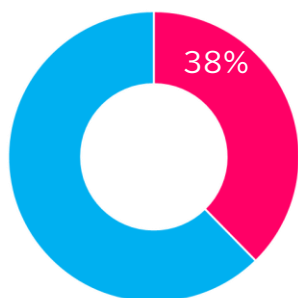
例)・資格取得に向けた学習をするため、選択的週休3日制度を活用

・子供の保育園のお迎えに行くため、出勤・退勤時間を1時間早める時差出勤制度を活用

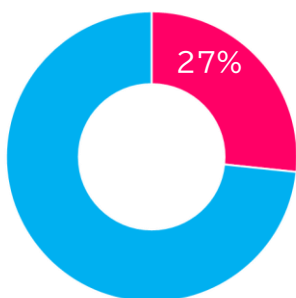
■ 女性の活躍支援

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開しています。また、お子様の成長に合わせて、柔軟に時短勤務制度を取り入れています。

● 女性従業員・女性管理職比率



■ 男性 ■ 女性
女性従業員比率
(2023年6月現在)



■ 男性 ■ 女性
女性管理職比率
(2023年6月現在)

● 育児休業制度・ 育児短時間勤務利用者数

年度	2020	2021	2022
育児休業制度利用者数(人)	1	0	1
育児短時間勤務利用者数(人)	3	3	3

■ 経営理念研修

三方よしビジネスサポート研究所の古望高芳先生をお招きし、“経営理念研修”を実施しました。2020年度に初めて実施し、それから3年間連続で実施しています。“経営理念研修”とは、当社の経営理念をより深く理解し、企業ビジョン設定・目標達成に向けて何が必要かを考え、経営に実装していくための研修です。この研修の経験を、今後の仕事に活かしていく、創業100周年に“世界一の植物化学企業”になれるよう、精進してまいります。



■ キャリア支援

OJTを通じ自立型人材を育成します。

全ての社員に成長する機会を与えられるよう階層別、テーマ別研修を設けています。

最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦力化に向けた研修に力を入れています。

1カ月の勤務時間のうち8時間以上を学習時間を設定し、個人の能力アップにつながる学習を推進しています(例:外部セミナー受講、資格取得に向けた勉強など)。

また、グロービス大学院の授業をオンラインで受講できる環境も整備しています。

■ 永年勤続・優良従業員表彰

11月7日に佐倉商工会議所主催で行われた「永年勤続・優良従業員表彰式」にて、当社社員11名が表彰されました。30年表彰で2名、25年表彰で4名、20年表彰で1名、10年表彰で2名が表彰されました。長きにわたり会社を支え、共に会社の成長・発展を見守ってくれている社員に感謝です。



■ 1on1制度

若手社員一人一人に中堅以上の社員をメンターとしてつけ、定期的に面談を行う1on1制度を設けています。メンターは他部門の社員をつけており、部署内では相談しにくいことなども相談でき、若手社員のメンタルサポートや悩みの解決の糸口を見つけることができます。

■ 人と人が繋がる職場づくり

会社組織で働くうえで重要であるのは、社員がお互いに尊重し合い、認め合うことです。社員全員が同じ文章を読み、感想を述べ合い、美点重視で意見交換をする「社内木鶏会」を実施しています。それぞれの考え方を尊重し、認め合う事で、仕事をする環境がより良いものになっています。

■ 焼き芋フェスタ開催

2022年11月24日に、佐倉ハーブ園で収穫したサツマイモを焼き、社員に焼き芋を振る舞う“焼き芋フェスタ”を開催しました。

社員はみな、幸せそうな顔で焼き芋を頬張っていました。甘くて美味しい焼き芋を食べて、やる気もお腹も満タンになりました。



■ 社員旅行

2022年7月14日～15日に、社員旅行を行いました。本年度は感染予防に配慮しつつ、大阪への旅行でした。2日目にはユニバーサルスタジオジャパンに行き、とても楽しむことができました。コロナ禍で2年間全社での社員旅行が実現しませんでした。久しぶりに楽しいひと時を過ごすことができ、社員同士のコミュニケーションも活性化しました。社員がリフレッシュすることで、よりよい仕事ができるため、社員旅行は良い機会になっています。



労働安全・衛生への取り組み



従業員が安心して働けるよう、健康と安全はすべてに優先し、労災事故件数0(ゼロ)を目標に、安全な職場づくりに取り組んでいます。一人ひとりの安全意識の向上、設備面・作業面のリスク低減に向けた活動を継続しています。

■ 安全衛生スローガン

安全なしに、幸福なし 衛生なしに、幸運なし

労働安全衛生方針

1. より安全な労働環境をつくります

労働災害があれば、事業が如何に順調であろうと幸福などあり得ません。日々労働環境を見直し、安全な職場を提供します。

2. より健康的な労働環境をつくります

健康的な労働環境をつくり、社員の健康増進をはかることで、お客様からの信用・信頼につながる、幸せ・めぐりあわせを感じる職場をつくります。

3. 職場環境を改善し、安心できる職場をめざします

リスクアセスメントの効果的な運用と実施により、職場に潜む危険要因を明確にし、改善することで、安心して働くことができる職場環境の実現をめざします。

4. 教育訓練及び啓発活動を通じて、安全衛生意識の向上に努めます

当社で働く全ての人に適切な教育訓練を行うとともに、労働安全衛生意識を自覚させ、全員で労働安全衛生活動に取り組めます。

5. 法令を遵守します

労働安全衛生に係る法令を遵守するとともに、必要な社内規程を整備・更新し、危険に対する高い感性を持ち、安全行動を積極的に行う人材を育てます。

6. 継続的な見直しと改善を行います

労働安全衛生リスクを低減するための目標を設定して計画的に活動し、適宜見直しを行うことで、労働安全衛生活動の継続的改善に努めます。

制定年月日:2023年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

労働安全衛生に関わるマネジメント体制

毎月「安全衛生委員会」を開催し、「リスクアセスメント」による潜在的リスクの低減活動を中心に、全員参加の安全衛生活動を推進しています。

労働安全面のさらなる向上に取り組むとともに、メンタルヘルスに重点を置いて衛生・健康面の取り組みを強化しています。

5S活動、安全ルールの順守、リスクアセスメントの徹底、教育・支援の強化、災害撲滅のPDCAサイクルの確実な実行に努めています。

労働安全・衛生への取り組み

- 労働安全教育
外部講師を招いての安全教育(AED使用方法、救命救急講習など)
- リスクアセスメント担当教育
- 各工程におけるリスクアセスメント教育
- 機械操作によるリスクアセスメント教育
- 技能講習・特別教育の受講
- 外部講習への参加
- 防災訓練の実施(2022年12月28日)



自主的な安全衛生管理の向上

- 安全衛生基準の設定
- 安全衛生委員会会議の実施
- 全国完全週間、全国労働衛生週間、
長期連休明け社内独自安全週間の設置
- 安全衛生委員の構内巡視と従業員への安全遵守
- 保護具着用の徹底
- 作業手順の周知と遵守



健康の保持促進と快適な職場環境の形成

- ストレスチェックの実施
- ノー残業デーの設置
- 労働時間管理、長時間労働者の状況確認とヘルスケアサポートの推進
- 産業医との健康相談窓口の開設
- 5S活動の実施
- 熱中症予防対策の実施および熱中症が疑われる場合の迅速な対応



資格取得促進・法令遵守

- 危険物取り扱いに関する資格取得の奨励
- フォークリフト技能講習



Governance

企業統治



ベねたむ

企業統治への
取り組みたむ！

公平性・透明性のための情報開示



社員および株主に対し、公平性・透明性のため、当社の経営情報を様々な形で開示しています。

■ 株主総会 （役員 → 株主および全社員）

株主に対し、前年度の経営情報を報告しています。
また、株主総会の様子は録画し、全社員が閲覧できるようにしています。



■ 全社総会 （役員 → 全社員）

全社員に対し、前年度の経営情報を共有しています。
売上実績だけでなく、利益や投資、労働生産性等についても共有し、全社員の意識を高めています。
質疑応答の時間も設け、社員から役員へ、様々な質問がされ、その場もしくは後日回答しています。



■ 経営報告会 （役員 → 東京中小企業投資育成(株)および会計士）

東京中小企業投資育成(株)および会計士に向け、四半期ごとに経営報告会を実施しています。
外部に経営情報を報告することで、客観的な意見をもらうことができ、その意見を踏まえた透明性の強い経営を行うことができます。

コンプライアンスの遵守



あらゆる事業活動においてコンプライアンスを遵守するための環境づくりに努めています。

■ コンプライアンスに関する窓口設置

コンプライアンスに反する職場・事業活動に関する窓口を設置しており、社員が匿名で意見を提出できるようになっています。提出された意見は役員会にて協議され、改善が必要な場合は即座に対応する体制を構築しています。

■ ハラスメント防止対策

当社はハラスメント防止規程を策定し、ハラスメントに関する相談窓口を社内に設置しております。また、部下の指導におけるパワハラ防止のため、管理職を対象にパワハラ対策セミナーを開いています。「ハラスメント防止方針(下記)」のもと、社員一人一人をハラスメントから守り、誰もが安心して快適に働ける職場づくりに努めて参ります。

ハラスメント防止方針

1. 行為者への厳正なる措置

私たちは、ハラスメント行為またはそれらを見過ごす行為を断じて許しません。発覚した場合には、行為者に対し厳正に対処します。

2. 被害者の救済

私たちは、ハラスメント被害者・相談者を必ず守ります。相談者や事実関係の確認に協力した方々のプライバシーに配慮し、不利益が生じないよう、最善を尽くします。

3. ハラスメント防止体制の整備

私たちは、すべての社員が個人として尊重され、ハラスメント行為が発生しないような健全な職場環境で働くことができる取り組みを推進します。

4. 相談窓口の設置

ハラスメントに関する相談窓口を設置し、苦情・相談の申し出があった場合は、規程に則り迅速かつ適切に対応します。

制定年月日: 2023年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

確かな品質の製品を製造するために



当社では、確かな品質の製品を製造するため、品質方針のもとで厳格な品質管理を行っています。また、各種認証を取得し、消費者の皆様安心してご使用いただける製品を製造しています。

品質方針

私たちは、経営理念を実現するために、「tokiwa行動規範」に則り、以下の品質方針を定め、みなさまの健康づくりに貢献します。

1. 法令を遵守し、高品質・均質で安全・安心な製品を提供します。
2. 品質マネジメントシステムの有効性について、継続的に改善します。
3. 全社員に教育、訓練を継続的に行い、品質意識・品質知識の向上に努めます。

制定年月日: 2023年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

各種認証取得

当社工場ならびに製品では下記の認証を取得し、確かな品質の製品づくりにつなげています。

- ・医薬品製造業許可
- ・動物用医薬品製造業許可
- ・JIHFS 健康食品 原材料GMP 認証
- ・Codex規格HACCP認証
- ・ハラール認証(一部製品にて)
- ・コーシャ認証(一部製品にて)



行政監査・ユーザー査察対応

当社では、海外(米国FDA 他)を含め、査察や監査の積極的な受入れを行っています。
その中で頂戴した貴重なご意見には真摯に向き合い、常に品質水準の向上に努めています。

	日時	対象	内容
医薬品医療機器 総合機構(PMDA)	2022年9月	医薬品	新医薬品GMP適合性調査
千葉県	2022年9月	食品	食品営業許可定期調査
海外顧客	2022年12月	化粧品	定期監査
国内顧客	2023年3月	食 品	納入前監査
	2023年3月	医薬品	納入前監査
	2023年2月	食 品	受託加工品定期監査
	2023年2月	医薬品	定期監査
	2022年12月	食 品	受託加工品定期監査
	2022年12月	食 品	受託加工品定期監査
	2022年12月	医薬品	受託加工品定期監査
	2022年11月	食 品	受託加工品定期監査
	2022年10月	食 品	納入前監査
	2022年6月	食 品	受託加工品定期監査
健康食原材料品 GMP	2023年3月	食品	JIHFS健康食品原材料GMP更新審査
	2022年5月	食品	JIHFS健康食品原材料GMP更新審査
HALAL認証	2022年10月	食品	受託加工品調査
	2022年6月	食品	当社製品調査
	2022年6月	食品	当社製品調査

BCPへの取り組み



2021年3月に、“事業継続力強化計画”の認定を受けました。事業継続力強化計画とは、中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が認定する制度です。当社では独自のBCP方針(下記)を策定しており、有事の際には方針に従い行動します。今後も防災・減災対策を促進していき、事業継続力強化に精進して参ります。



BCP方針

私たちは、あらゆる天災、人災等のリスクに対し、5つの方針を守ります。
そして、BCPの策定と継続的な見直しの実施を宣言します。

1. 社員とご家族の安全を確保します

災害が発生した際には、何よりも常磐植物化学研究所で働く全ての社員とその家族の命、安全、そして暮らしを守ることを最優先に行動します。

2. 早期回復によりお客様への製品の供給継続を目指します

事業を継続・早期回復するためにあらゆる努力を行い、ステークホルダーからの信用・信頼を守ります。

3. 透明性のある情報を開示します

社内外における情報収集を徹底し、必要な情報を迅速に開示・提供します。

4. 地域と社会を支援します

地域・社会との協調、連携、復興支援を行い、社会貢献に努めます。

5. 社員の意識向上を図ります

私たちが日々平穏に生きていられるのは当たり前ではないことを認識し、自然、社会、日常へ常に感謝する意識を全社で醸成します。

制定年月日：2023年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

“世界一の植物化学企業”
を目指して



tokiwa
PHYTOCHEMICAL

▼HP▼ ▼facebook▼ ▼YouTube▼



Sana
自然と美と健康

▼HP▼ ▼Instagram▼



べねたむ®

▼Twitter▼ ▼Instagram▼



佐倉ハーブ園
sakura herb garden

▼HP▼ ▼facebook▼ ▼Twitter▼ ▼Instagram▼ ▼YouTube▼



最後まで読んでくれて
ありがとうたむ！



べねたむ®

tokiwa 株式会社 常磐植物化学研究所
PHYTOCHEMICAL

本社・工場 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地 TEL:043-498-0007 FAX:043-498-0561
東京支社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 TEL:03-5200-1251 FAX:03-5200-1256